



**複式炉** (梁川 北町谷川)

縄文時代中期の炉で、川石をきれいに積み並べた石組炉と埋め込んだ土器の二重構造になっている。



**土錐** (東大枝 矢洗)

阿武隈川などで魚をするとき網に用いたと思われる土製の錐。



**片口鉢と壺** (五十沢 八郎)

13世紀頃の製品で、常滑焼と同じ瓷器系の八郎窯は東北南部の中世陶器の歴史を知る上で重要とされている。



**弥生時代の壺** (五十沢 館前)

弥生時代になると土器は高温で焼かれ形も文様もすつきりしてくる。

**調理用の土器** (梁川 東土橋)

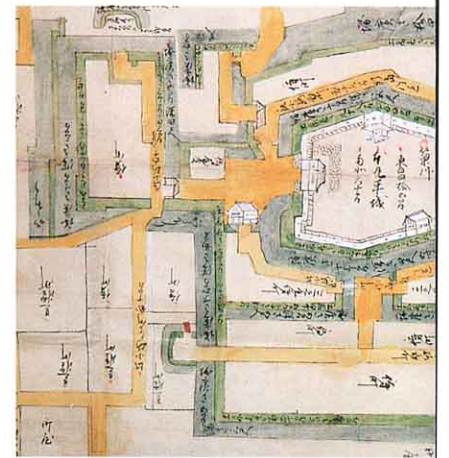
平安時代の住居跡から出土した長胴甕と、めずらしい甌・羽釜。当時の暮らしを物語っている。



**平瓶** (堰本 新山)

8世紀の新山古墳の石室内から出土した酒などを入れる容器。

のきまるがわら  
**軒丸瓦と**  
梁川城  
巴 (軒)



**茶臼山北遺跡での説明会**

武家屋敷や寺院の遺構が見つかった発掘現場には検出された木橋が見える。

当時の国際通貨であった明の「永楽通宝」を中心  
に三〇〇枚近く出土した。

**青磁片** (梁川城跡)

青磁片の中には一四世紀までさかのぼる古い碗や高級品の壺などがある。

